

■ 秋田に生き秋田を描く

勝平 得之

かつひら とくし

出身地 秋田市

1904年（明治37年）～1971年（昭和46年）

紙漉き職人の家に生まれ、父が漉いた紙に版画を摺り始める。下絵・彫り・摺りの創作作業を独りで行い、「秋田十二景」など、題材はすべて郷土秋田の風土風俗である。作品は欧米各地でも紹介・収蔵されている。



年譜

- 1904年 秋田市に生まれる。本名・徳治。
- 1919年 中通尋常高等小学校卒業。
- 1928年 彩色木版画の技法を考案。画号を得之と定める。
- 1931年 「雪国の市場」帝展初入選。
- 1934年 「店」「雪の街」をルーブル美術館に出品。
- 1935年 ブルーノ・タウトと出会う。
- 1951年 第1回秋田市文化章を受章。
- 1956年 日展委嘱、無鑑査となる。
- 1963年 第7回秋田県文化功労章を受章。
- 1971年 秋田市で没。66歳。